

学科の学び・カリキュラムポリシー

本学科では、生物医療情報学を学び、とりわけ情報処理やデータ解析の視点から、医薬・医療、食糧、環境、情報等の分野で社会に貢献できる研究者、技術者、データサイエンティスト、実務者等を育成することを、教学の目標に据えています。

- I 生物医療情報学を学ぶ上で、コンピュータを使いこなす能力の育成は必須です。そのため、1年次から2年次まで、コンピュータの基本操作、プログラミング、データベース、バイオインフォマティクスなどの情報実習を必修科目として配置します。
- II 加えて、バイオサイエンスの基礎知識・技術を修得するために、1年次から2年次まで必修科目としてバイオサイエンス実験・演習科目を履修します。
- III これらの講義と実験・実習を通じて、コンピュータとバイオの両方に精通した人材を育成します。
- IV 同時に、次のような特色を持った講義と実習により、大学院への進学力や様々な職業分野への就業力を高めます。
 - 1 初年度から専門分野の各論教育を行います。
 - 2 2年次後半からは「情報生物学専門プログラム」と「医療情報技術専門プログラム」に分けて、専門的な教育を行います。
 - 3 医薬・医療などに関連する講義を行います。
 - 4 3年次後期から研究室に配属し、専門的な研究・演習を行います。

卒業までに身につけるべき能力 学位授与方針・ディプロマポリシー

広い教養とバイオサイエンスの専門知識・技術を兼ね備え、産業の振興および学術文化の発展に寄与する人材であること。

- 1 バイオサイエンスの深い知識を基盤とした専門技術力を持つ
- 2 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ
- 3 生命への尊敬と倫理観、地球環境への洞察力を持つ

- 4 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ
- 5 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ

これらの能力の獲得と、学部の教育課程に規定する所定単位の取得をもって、学士課程学位を授与します。